2016年11月24日

**国際秩序転換期の日本外交**

**細谷雄一　（慶應義塾大学法学部教授）**

**はじめに　―歴史の中に現在を位置づける**

1. **東アジアの国際秩序と日本外交　―なぜ不安定なのか**
2. 均衡の体系　―パワー・バランスの変化と不透明性の増大
3. 協調の体系　―東アジアにおける大国間協調の不在
4. 共同体の体系　―利益の共有と価値の衝突

**２．勢力均衡の回復へ向けて**

（１）中国の台頭と日米同盟の後退

（２）アメリカの「退却思考（リトレンチメント）」の持続

（３）「アジアの安全保障ダイアモンド」構想　―日・米・豪・印

（４）日米同盟の深化へ向けて　―新ガイドラインと安保関連法

**３．リベラルな国際秩序の浸食**

（１）アメリカの東アジア関与の不透明化

（２）イギリスの解体とEUの混迷

（３）ロシアと中国の挑戦

（４）トランスナショナル・テロリズムの拡大

**４．平和はいかに可能か**

（１）国際的リーダーとしての日本

（２）日米同盟のレジリエンス　―強靱性と復元力

（３）日中間の「戦略的互恵関係」の模索

（４）東アジアにおける実務協力　―災害・エネルギー・保健衛生・経済成長

**おわりに　―日本に何ができるのか**

**関連文献**

細谷雄一『国際秩序　―18世紀ヨーロッパから21世紀アジアへ』（中公新書、2012年）

細谷雄一『安保論争』（ちくま新書、2016年）

細谷雄一『迷走するイギリス　―EU離脱と欧州の危機』（慶應義塾大学出版会、2016年）